# 安野発電所への中国人強制連行
# 「安野 中国人受難之碑」建立10周年記念集会
# 碑と向き合う

**日　時：2020年10月17日（土）14:00～16:30**

**会　場：広島弁護士会館 3階ホール**（広島市中区上八丁堀2-73 ウラに地図があります）

**参加費：500円**

**主　催：広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会**

「安野 中国人受難之碑」（広島県安芸太田町坪野）

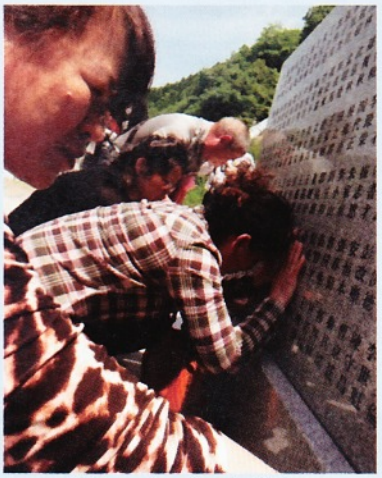
アジア・太平洋戦争の末期、労働力不足を補うために、東条英機内閣が閣議決定して、中国から約4万人の中国人を強制連行し、全国135か所の事業場で重労働に従事させました。その結果、約7,000人が日本で命を落としました。生き残った中国人は、日本敗戦後、何の補償も受けることなく集団で帰国しました。広島では、西松組（現在の西松建設）が360人を安野発電所の建設工事に従事させ、29人が死亡（うち5人は原爆死）し、331人が帰国しました。

戦後48年が経過した1993年、安野の中国人被害者は西松建設に対し謝罪と補償を求めて交渉を始め、9年にわたる裁判を経て、2009年に西松建設との間で和解しました。

和解成立から1年後の2010年10月、強制労働の現地に「安野 中国人受難之碑」が建立されました。中央の主碑の裏側には、歴史事実と和解に至る経緯、そして将来にわたる日中友好を願う碑文が、安野中国人受難者及び遺族と西松建設との連名で刻まれています。両側の小さい碑には、強制連行された360人全員の名前が180人ずつ刻まれています。

「安野 中国人受難之碑」建立から10年の節目にあたり、碑のもつ意味と意義について考える集会を開催いたします。ふるってご参加ください。

なお、新型コロナ感染予防対策としてマスクの着用をお願いいたします。



額をつけて悲しむ遺族

和解成立後、和解事業の訪日活動として延べ 199 人の生存者・家族・遺族が 6 回に分かれて来日し、強制労働の現地を訪ねて、「安野 中国人受難之碑」前で開催された追悼の集いに参加しました。

名前を見つめる生存者

名前の写真を撮る遺族たち

**≪プログラム≫**

**第一部　「安野 中国人受難之碑」の建立**

**1　和解成立から碑建立へ　　元西松安野友好基金運営委員　杉原 達**

**2　建立作業の実際　　(有)吉村石材店社長　吉村政則**

**3　訪日団と碑　　継承する会事務局長　川原洋子**

**第二部　碑が歴史を継承する**

**1　室田元美「各地の中国人強制連行碑から見えてくるもの」**

**2　内田雅敏「中国人強制連行碑の歴史」**

**室田元美（ルポライター）**

1960 年生まれ。広告会社のコピーライターからフリーランスに。女性誌のライター、ＦＭラジオ番組の旅をテーマとした構成作家を経て、各地を旅して戦争に関する取材を行なっている。

『ルポ悼みの列島　あの日、日本のどこかで』(社会評論社、2010 年)、『ルポ土地の記憶　戦争の傷痕は語り続ける』(社会評論社、2018 年) ほか。

**内田雅敏（弁護士）**

1945 年生まれ。中国人強制連行・強制労働問題（鹿島花岡、西松安野、三菱マテリアル）などの戦後補償問題、靖国問題などに取り組む。元西松安野友好基金運営委員会委員長。

『戦後補償を考える』(講談社現代新書、1994 年)、『靖国参拝の何が問題か』(平凡社新書、2014 年)、『元徴用工　和解への道』(ちくま新書、2020 年) ほか。

**【連絡先】**

**広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会**

**電 話：０８０－３８８０－８３４０**

**Ｅメール：ykkwhr@pony.ocn.ne.jp**

**ホームページもご覧ください**

http://keishousurukai.s2.weblife.me/